

立命館 言語文化研究

20巻3号

目次

| | |
|-------------------------------|-------------------------------------|
| 謝辞 | 中川成美 (1) |
| 西川長夫名誉教授 略歴・著作目録 | 内藤由直 (作製) (5) |
| 特集 | |
| 国際シンポジウム | |
| グローバル化時代の植民地主義とナショナリズム | |
| 序文 | 西川長夫 (41) |
| 開催にあたって | 高橋秀寿 (45) |
| 1. 問題提起 | |
| グローバル化に伴う植民地主義とナショナリズム | 西川長夫 (47) |
| 犠牲者意識の民族主義 | 林志弦／金京媛 (訳) (57) |
| もう一つの東アジア視座 | 孫歌 (63) |
| 2. ジェンダー論の視座 | |
| グローバル化時代に転置されるジェンダー関係 | |
| —結婚とセクシュアリティを通じた越境— | 金恩實／藤井たけし (訳) (67) |
| 追悼の政治と占領期のマスキュリティ | |
| —<戦争の死者>をめぐる言説とその布置— | 長志珠絵 (79) |
| 日・韓ナショナリズムと「慰安婦」問題 | 山下英愛 (89) |
| キム・長・山下論文に対するコメント | 岡野八代 (97) |
| 3. 現代ナショナリズムの諸相 | |
| 越境する記憶・抗争する表現 | |
| —グローバル化時代におけるナショナリズムの移動と拡散— | 尹相仁 (103) |
| 歴史学とナショナリズム | |
| —平野義太郎の「大アジア主義」— | 今西一 (109) |
| 帝国とディストピア | |
| —植民地朝鮮と大東亜共栄圏— | キム・マイケル／加藤昌弘 (英日訳), 全且煥 (韓日訳) (119) |
| コメント | 牧原憲夫 (129) |
| 4. 中国・台湾・在日 | |
| 植民地主義の後遺症 | |
| —台湾を中心に— | 周婉窈／李珮蓉 (訳) (133) |
| <在日>, “国民”の狭間を生きて | 文京洙 (145) |
| 第四セクション「中国・台湾・在日」に寄せて | 林淑美 (151) |
| 5. 全体総括 | |
| 討論とまとめ | (157) |

2007 年度植民地主義研究会 研究報告

歴史の曲がり角に立って—孫歌さんに聞く—

- はじめに…………… 西川長夫 (187)
- 質問…………… 花森重行, 小川浩史, 李珮蓉, 倉本知明 (187)
- 大野藍梨, 竹村正人, 原佑介, 番匠健一
- (応答) 歴史の曲がり角にたつて…………… 孫 歌 (192)

2008 年度プロジェクト B4 研究報告(3)

戦後の農民運動と農村の変容

- はじめに…………… 西川長夫 (207)
- 早稲田大学・1950 年—歴史の証言—
- 吉田嘉清・竹内良能氏に聞く—…………… 今西 一 (209)
- 吉田嘉清氏インタビュー…………… (217)
- 竹内良能氏インタビュー…………… (243)
- 松下清雄蔵書目録(2)…………… 岩間優希, 原 佑介(作製)(261)
- 短編小説「少年の冬」(後編)…………… 松下清雄 (281) (1)